令和6年度 武蔵野市環境啓発施設運営会議（第5回）議事要録

- 1 日時 令和7年3月5日（水）午後2時～3時30分
- 2 場所 むさしのエコreゾート
- 3 出席者 中西委員、村井委員、野村委員、奈良委員、関口委員

4 議事要録

(1)はじめに

（事務局より資料1について説明）

- ・武蔵野市環境啓発施設運営会議(第4回)議事要録の確認を行った。

(2)開館からの振り返りについて

（事務局より令和6年度事業の振り返り、令和7年度の事業予定について説明）

- ・ワークショップなどのプログラムを通して、参加者の行動変容に繋がっているか。市民団体と行政の連携によって繋がる仕組みができると良い。

⇒(事務局)参加者の行動変容まで把握することは難しいが、行動変容の意思までは確認している。

- ・施設の一部を占有するフードバンクの現状と、カフェスペースに展示されている遠野市の棚などについての経緯について説明してほしい。

⇒(事務局) フードバンクは、昨年度と同様にフードパントリーなどのイベントを実施している。遠野市とは木材の活用について連携協定を結び、環境教育の一環として木材に触れる機会を提供することとしたことが背景にある。市民に木材を知ってもらうPRとして施設に展示している。

- ・展示物の適正さや、団体の活動内容による占有の可否など、チェック機関のような手続きを設けてほしい。

⇒(事務局)

- ・管理運営方針の評価・検証方法に記載するソーシャルインパクト評価やSGDsの貢献度などについては、定量的に示すことは困難であるという理解でよいか。

⇒(事務局)その通りである。

- ・定量的に示せるものとしては、旧クリーンセンターを環境啓発施設とせずに解体した場合と、環境啓発施設とした場合とで、エネルギーやCO2など数値的に比較できるのではないか。また、成蹊大学の気象観測データなどから、市街地と吉祥寺北町3丁目と比較してどのような緑の効果があるかなど、できるところでデータを積み上げていくのが良いのではないか。

- ・エコreゾートができた経緯などについて引き続きPRしてほしいと思うが、施設を視察や見学しに来る人はいるか。またその場合はどのように対応しているか。

⇒(事務局)ごみ焼却施設の建設や建替えを検討する自治体や広域処分組合などがクリ

ーンセンターの見学と合わせて、地域貢献の手法として視察することが多い。武蔵野市におけるごみ問題の中で、どのような経緯でできたのか説明している。

- ・小中学校の見学はどの地域から、どの学年が来ることが多いか。また、学校での学習成果を発信するようなことがエコ re ゾートで可能か。

⇒(事務局)現状では見学している学年を記録していない。今後学校との連携を進め、記録していきたい。徒歩圏の学校と離れた学校から来館している。施設でバス手配できるが、中間の学校についてはバス手配に気兼ねしているのかもしれないので周知していきたい。成果発表については、依頼に応じて館内掲示などしているが、例えば施設予約利用で発表会などを開催していただくことも可能なので、ぜひ使ってほしい。

(3)その他

- ・事務局より、「ゆる SDGs フェスティバル」開催及び令和 7 年度運営会議について説明した。

以上